

東京大学東アジア藝文書院

活動報告書

2022

The Annual Report of
East Asian Academy for New Liberal Arts



The University of Tokyo



中島 隆博

(東アジア藝文書院院長)

「ともに花する空気——Human Co-floweringへ」

2022年度は、東アジア藝文書院（EAA）の第二期を始めることができました。振り返りますと、前半と後半で大きく様変わりしたように思われます。前半は、相変わらず新型コロナウイルスに翻弄され、第一期と同様にオンラインを中心とした活動に終始しました。ところが、後半になりますと、海外の状況が一変し、国際的な交流が徐々に復活し始めたのです。わたし自身、昨年11月には、マルクス・ガブリエルさんがアカデミック・ディレクターを務めているハンブルクのThe New Instituteという民間の研究所に滞在し、世界各地から集ったフェローの方々と対面で交流することができました。ようやくコロナ後の国際交流の視界が開けた思いがいたしました。

今年度、特筆すべきは、潮田総合学芸知イニシアティブを開始することができたことです。潮田洋一郎さんからのご寄付に支えられた、東アジアの「アーツ」（総合学芸知）に対する包括的な理解と新たなアプローチを探究するプロジェクトです。「藝文学研究会」を立ち上げ、ほぼ毎月のように対面とオンラインのハイブリッドで議論を深めることができました。

またその枠組みで、海外の気鋭の学者を招聘することも実現できました。東京カレッジと東アジア藝文書院との連携のもと、延世大学のキム・ハン教授を一年間招聘することができたのです。これを合図に、北京大学をはじめとする海外の研究者との交流という、わたしたちの本来の目的を着実に実現していきたいと思っております。

ダイキン工業様との連携もさらに深まり、11月30日に開催された「ダイキン東大産学協創フォーラム——「空気の価値化」が創生する未来の社会と技術」では、この間の成果が一般に公開され、「空気の価値化ビジョン」という小冊子が配布されました。その最後の二頁にわたって、「ともに花する空気——Human Co-floweringへ」という拙文を掲載していただきましたが、それは東アジア藝文書院の活動から考えたものをまとめたものです。今後は英語版、中国語版も出されると聞いております。

この活動報告書をご覧くださいますと、わたしたちが様々な活動を通して、Human Co-floweringを実現しようと願っている、そののぞみを読み取っていただけるのではないかと思います。今後とも東アジア藝文書院への温かいご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



石井 剛

(東アジア藝文書院副院長)

EAA第二期のスタート

今年度は第二期のスタートの年となりました。研究・教育・社会連携を三つの柱に据えた「東アジアからの新しいリベラルアーツ」、これが第一期に整ったEAAの骨格です。おかげさまで、総合文化研究科・教養学部の運営諮問会議では、駒場における社会連携の典型事例のひとつとしてEAAが紹介されました。また、北京大学との交換留学が現地渡航という本来あるべき姿でようやく実現しました。恒例の学術フロンティア講義「30年後の世界へ」は、2021年度の講義が『私たちは世界の「悪」にどう立ち向かうか』（トランスビュー）として出版され、今年度の「「共生」を問う」も出版に向けて準備が進んでいます。学問がその真価を発揮するためにこそ、社会からの負託に応えることがわたしたちの使命です。どうぞ今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



張 政遠

(総合文化研究科 准教授)

書院教育の可能性を探る

東アジア藝文書院は東京大学の中の唯一の「書院」です。書院教育の目的は、学生たちと一緒に古今東西のクラシックスを読みながら、「30年後の世界」に向かって想像することにあります。しかし、教育の現場は講義棟やオンライン空間だけとは限りません。駒場キャンパス内では、禅堂の「三昧堂」や茶室「柏蔭舎」で授業を行ったこともあれば、キャンパスの外では、能面を制作する「北澤木彫刻所」や福島県富岡町の被災地など学生たちと一緒に「巡礼」したこともあります。また、書院を考えるワークショップでは、「ナレッジトランスファー」や「リカレント教育」を検討しています。コロナ禍で奪われた体験学習を取り戻すべく、書院教育のポテンシャルを探りたいと考えています。



田中 有紀

(東洋文化研究所 准教授)

人文学が社会に果たす役割

東アジア藝文書院の社会連携は、寄付者と私たちが、それぞれの知識や技術を共有しあい、相互に理解を深め、社会において大学がどのような役割を果たせるか、人文学が世界に対しどのように寄与できるかを常に考えながら進められています。たとえば今年度は、ダイキン工業株式会社を訪問し社員の皆さまと同じ本を読みながら、より良い「空気」について共に考えました。また同じくご支援を頂いている潮田洋一郎さんには、潮田総合学芸知イニシアティブ・キックオフイベントにご参加いただき、中島院長をはじめ、「情」についてメンバーとの対話を行いました。社会連携によって培われたものは、東アジア藝文書院における教育活動・研究活動にも還元され、日々新しい相乗効果が生まれています。



柳 幹康

(東洋文化研究所 准教授)

「藝文学」ユニットの創設

東アジア藝文書院では発足以降、四つのリサーチ・ユニット「世界哲学と東アジア」「世界文学と東アジア」「世界史と東アジア」「未来社会と環境・健康」を組み様々な研究を続けて参りましたが、2022年度はそこに新たに「藝文学」ユニットを加えることができました。これは潮田総合学芸知イニシアティブの研究を推進するもので、寄付者の潮田洋一郎さんを名誉フェローにお迎えして研究会を開き、人として自由に生きるための「総合学藝知」を探究しています。これまでダイキン工業様との連携で取り組んできた「空気の価値化」とともに、「総合学藝知」の構築を目指し皆が自由に研究しその成果を融合させていくことで、「ともに花する空気」を東アジア藝文書院から世界に満たしていきたいと願っています。

東アジア教養学

EAAが開講する教育プログラム「東アジア教養学」ではクラシックスの読解を基礎とした徹底的な議論と相互学習の場を、国際的かつ多言語的な環境の中で提供している。



駒場キャンパス内の三昧堂での授業風景 (2022/07/05)



演習で和辻哲郎著「面とベルソナ」を読後、北澤木彫刻所で能面制作現場を見学 (2022/07/30)



被災地の現状を知るために福島への実地研修を行い、中間貯蔵施設・廃炉資料館・とみおかアーカイブ・ミュージアムを参観 (2023/01/28)

EAAユース

東アジア藝文書院において活動する学部後期課程生・大学院博士課程生からなる学生組織。EAAが開講する科目の授業に参加しつつ、授業外においても自発的な学術活動を展開しながら、EAAが目指す新しい学問の構築に積極的に関与している。



第4回修了式が行われ、EAAユース第2期生の熊木雄亮さん、森要さん、Qing Xinさんの3名に修了証が授与された。(2023/03/22)

学術フロンティア講義

2022 S-semester 学術フロンティア講義

30年後の世界へ
「共生」を問う

場所: 21KOMCEE East K011 曜限: 金曜 5限

1	4月8日 ガイダンス
2	4月15日 共生をめぐる小さな自伝的物語り 青山 和佳 (東洋文化研究所/東南アジア地域研究)
3	4月22日 いかにして共に生きるか——「食べること」と「リズム」について 星野 太 (総合文化研究科/美学/表象文化論)
4	5月6日 Living in Harmony with Nature: Is It Possible And How? 呂 植 (北京大学 生物保護学)
5	5月20日 Beyond the Organismic Metaphor, or Philosophy after Cybernetics ユク・ホイ (香港城市大学 技術哲学)
6	5月27日 共生とバイオポリティクス 中島 陸博 (東洋文化研究所/東アジア藝文書院 世界哲学/中国哲学)
7	5月30日 類を越える物と共に生きる世界: 中国思想から考える環境倫理 田中 有紀 (東洋文化研究所/東アジア藝文書院 中国哲学)
8	6月3日 「他者と共生する「私」とは誰か——レヴィナスの思想を手がかりに 藤岡 俊博 (総合文化研究科/フランス哲学/ヨーロッパ思想史)
9	6月10日 仏教から見た共生: 私ひとりですべて幸せになれるのか? 柳 幹康 (東洋文化研究所/東アジア藝文書院 中国仏教思想史)
10	6月17日 先住民との共生 張 政遠 (総合文化研究科/東アジア藝文書院 日本哲学/現象学)
11	6月24日 文学研究と「ポストクリティーク」——批判は共生のための技術になり得ないのか? 村上 克尚 (総合文化研究科/日本戦後文学)
12	7月1日 共生を求めること・共生を撮ること——魯迅を再読する 王 歆 (総合文化研究科/東アジア藝文書院 比較文学/批評理論)
13	7月8日 よりよく生きるためのスペースを想像する 石井 剛 (総合文化研究科/東アジア藝文書院 中国哲学/中国思想史)

EAA | 東京大学東アジア藝文書院
EAST ASIAN ACADEMY FOR NEW LIBERAL ARTS, UTokyo

2022年度は「30年後の世界へ「共生」を問う」と題し、文学・哲学・環境・宗教など様々な専門分野から、改めて「共生」について考えた。既存の概念と対話し、人間全体がよりよく生きるための「共生」概念を見つけ、新しい未来への希望を開くための講義を行った。

サマーインスティテュート



EAA UTokyo-PKU Summer Institute 2022
Education and innovation
 Date: August 22-23, 2022
 (Ice-breaking Session on August 22)
 Place: Zoom
 Language: English


Lecture1
Prof. WANG Liping
 (Peking University)


Lecture2
Prof. TANG Keyang
 (Tsinghua University)

主催：東京大学東アジア藝文書院 (EAA)
<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/>

北京大学と東京大学との共同プログラムである Summer Institute では、Education and innovation を今年度のテーマとし、オンラインで開催。両校からの参加者がグループ分けされ、それぞれプレゼンテーションを準備し発表を行った。

藝文学研究会



潮田総合学芸知イニシアティブの創設にともない、2022年度にプロジェクトを推進するための藝文学研究会も立ち上げられた。私たちはどうすれば「共に人間になる」ことができるのか。新しいアイデアの創発を促す、誰もが安心して発言できるような“サロン”とも言うべき言論空間で毎回活発な議論が繰り広げられている。



キックオフイベント

EAA潮田総合学芸知イニシアティブ創設記念



東アジアの「アーツ」（総合学芸知）に対する包括的な理解と新たなアプローチを探求するEAA潮田総合学芸知イニシアティブ (UIA) が 2022 年度創設されたのを記念し、キックオフイベントが開催された。寄付者である潮田洋一郎氏の名誉フェロー就任式に続き、中島隆博院長とのダイアログも行われた。

おおくすセミナー&哲学カフェ



「民俗学 × 哲学」研究会では、徳島県三好郡東みよし町にある「おおくすハウス」にて、民俗学と哲学のコラボレーションをめざす様々なワークショップを関西学院大学の山泰幸氏とともに開催。「哲学カフェ」では「忘れること」「愛と幸福」「SDGs」等について、東みよし町の住人の方々をはじめ、世界各地から来訪した研究者とともに活発に議論し、地域社会と研究者を結ぶ試みを継続的に行っている。

EAA哲学ワークショップ

宇沢弘文『社会的共通資本』を読む



中島隆博院長以下EAAより6名がダイキン工業株式会社のテクノロジー・イノベーションセンター(TIC)を訪問し、学術フロンティア講義のスピンのオフセミナーをダイキン社員の方々と開催。参加者は事前に『社会的共通資本』を読んで、セミナーに臨み、それぞれの視点から批評を展開した。

ダイキン東京大学産学協創フォーラム

「空気の価値化」が創生する未来の社会と技術

ダイキン東京大学産学協創フォーラム DAIKIN-UTokyo Lab.

P11 東京大学東アジア藝文書院 (East Asian Academy for New Liberal Arts, EAA)
東アジアからの新しいリベラルアーツによる
「空気の価値化」

中島隆博、石井剛、張政遠、田中有紀、柳幹康、王欣
東京大学 東洋文化研究所 東京大学 大学院総合文化研究科
連絡先：東アジア藝文書院
info@eaa.u-tokyo.ac.jp
https://www.eaa.u-tokyo.ac.jp

「空気の価値化」を考える

EAAはダイキン東大ラボにおいて未来ビジョン協創連携の一翼を担い、リベラルアーツの視点から「空気の価値化」を考えます。

「価値」と「価値化」の関係

- 「空気」は「社会的共通資本」としての価値をもつ。
- 空気づくり (Air Conditioning) と人づくり (Human Conditioning) を融合して、非価値の領域を価値化する。
- 大学が新しい資本主義に向けた変革のプラットフォームになることによって人間は「価値化」される。
- 大学は新たな価値を生み出すカオスの場として社会全体によって支えられるべき。

人間と自然を基盤づける関係性概念としての空気

- 人として存在する (Human Being) から「共に人となる」 (Human Co-becoming) への人間性の転換。
- 社会的価値を非市場的社会領域と倫理的 (社会的) 市場の双方で実現する制度の探究。
- 空気を人間の健康、自然万物の相互関係の動的平衡の基礎条件と見て、空気が取りなす関係性をインデックス化。

企業と大学の相互変容のダイナミクスとして産学一体の社会変革原動力へ

「書院」とは必ずしも立場を同じくしない多様な人が集まり、共に精神的・身体的に成長していく学問探究の場です。EAAは「書院」を維持することで、人間的な問いや課題を講義で世界中からやってくる学生、企業人、社会人、学生による学問協創空間創設を目指します。EAAは企業と大学が相互に変容しながら、社会と人間のかけがえのない価値にコミットし、明日の世界に対する責任あるステークホルダーとなるのを促し、21世紀の人類に望まれる学問のあり方を実践的に構築し続けます。

■ 研究・教育・社会連携三位一体による新しい大学像の提示

EAAは「東アジアからのリベラルアーツ」創成を掲げ、北京大学とのジョイントプログラムとして始まったプロジェクトです。研究・教育・社会連携それぞれにおいてかつてない新たな試みを実施し、21世紀の大学のあるべき姿を提示しています。

【研究】人文学における最先端国際研究ネットワーク

- 最先端の研究者ネットワークをグローバルに構築し、「世界」と「人間」の再定義に関わる人文社会科学的課題にアプローチ。
- 現在は、北京大学、ニューヨーク大学、オーストラリア国立大学、ボン大学と提携 (ソウル国立大学とも提携準備中)。

研究成果はブックレットとして編纂発行、現在21巻目作成中。巻名は「世界と人間」

【教育】北京大学とオンラインリベラルアーツを共同育成

- 「東アジア教養学」プログラム：両大学の学生が軌を並べて共に学ぶジョイントプログラム。
- 英中日のオンラインリベラルアーツ教育。
- 研究ネットワークとの連携による最先端研究と古典文献講読との融合。

【社会連携】リベラルアーツとしてのリカレント教育

- 文系分野による産学連携としてのリベラルアーツ・リカレント教育。
- 東大の正規授業をダイキン社員がオンラインで聴講参加する「学術フロンティア講義」。
- 東大教員が指導する哲学セミナーの開催。

2023年度講義名が発表されています！
「私たちが世界のためにできることは何か」

2023年度は「空気の価値化」をテーマに、ダイキンと共同で「空気の価値化」をテーマにしたブックレットを出版予定です。

EAA設立4年目にあたる2022年に開始した新たな取り組みについてポスターセッションにて紹介。文系領域における産学連携の試みは学内外の注目を集めた。フォーラムの最後には中島院長の言葉「ともに花する空気」が取り上げられた。(2022/11/30 於本郷キャンパス)

「開発と文学」研究会



通常、社会科学的視点から論じられることが多い「開発」という営為。本研究会は、「開発」について、人文学的、とりわけ文学的アプローチを試みる全く新しい挑戦である。



「部屋と空間プロジェクト」研究会



誰もが愛着を持ち、自身を成長させることができる共有空間とはどのようなものなのか。人文地理・文学・哲学・開発・歴史など様々な学問から、「居心地の良い空間」を考える。



東洋美学の生成と進行



いまだ適切に位置付けられてきたとはいえない東洋美学という分野について、その射程とあり方を考え直すための研究会。ダイナミックに生成されつつある東洋美学というジャンルを問い直す。



EAAシンポジウム

いま、大江健三郎をめぐる

Day 1

2022年12月3日(土) 14:00-16:00
 東京大学本郷キャンパス山上会館大会議室
 発表: 高山花子 片岡真伊 村上克尚
 司会: 柳幹康

Day 2

2022年12月4日(日) 14:00-16:00
 東京大学本郷キャンパス山上会館大会議室
 発表: 菊間晴子 岩川ありさ
 司会: 田中有紀

Day 3

2022年12月10日(土) 14:00-16:30
 東京大学駒場キャンパス118号館ホール
 発表: 尾崎真理子
 対談: 工藤庸子 × 尾崎真理子
 総合討論

EAAシンポジウム
 いま、大江健三郎をめぐる



ノーベル文学賞作家である大江健三郎の文学世界は、読者にとっても研究者にとっても新しい展開を迎えている。2022年12月、3日間にわたり国内の文学研究者の方々とともに、様々な角度から、いま大江作品を読む可能性を探るシンポジウムを開催。大江が没する最後の一年間に行われたシンポジウムとしては最大規模のものとなった。

批評と大衆

EAA 批評研究会 シンポジウム
「批評と大衆」

I. 基調講演 大澤聡 (近畿大学)
 コメンテーター 前島志保 (東京大学)
 高原智史 (東京大学)

II. 個人発表 田中有紀 (東京大学)
 片岡真伊 (EAA 特任研究員)
 郭馳洋 (EAA 特任研究員)

III. 総合討論

日時 2023年1月29日(日) 14時~17時
 場所 東京大学駒場キャンパス & オンライン
 ※要事前申請 (詳細は下記のURLをご参照ください)
<http://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/events/criticism-20230129>



2021年から批評にまつわる文献を読む研究会を積み重ね、繰り返し浮上してきたキーワード「大衆」をテーマにシンポジウムを開催。メディア史・社会批評を専門とする大澤聡氏をお招きし、登壇者の各専門分野の立場から「批評と大衆」に纏わる様々な観点が共有された。

EAAシンポジウム

沖縄施政権返還から50年



EAAシンポジウム 沖縄施政権返還から50年——辺境東アジアから冷戦を考える

2023年3月16日(木) 13:00-16:00

<https://u-tokyo-ac.jp.zoom.us/j/9205121049>



2022年は、沖縄をめぐる施政権が米国から日本国に返還されて50年という節目の年であった。しかし「沖縄問題」と呼ばれる構造は依然として膠着状態にあり、「新冷戦」とも言うべき今日の東アジア情勢において新たな局面を迎えている。本企画では、東アジアというトposが抱える矛盾が凝縮された「辺境」(あるいは白永瑞氏の言葉で言うところの「核心現場」)という視点から、1945年以降、この場所が辿ってきた道程を歴史のおよび理論的に考察することを旨とする。

Program

- 13:00-13:15 開会の挨拶および主旨説明
 ——張政通/東京大学准教授、崎濱紗奈/東京大学東洋文化研究所EAA特任助教
- 13:15-13:35 発表1:「冷戦の終焉」と東アジアの米軍基地
 ——波照間剛/沖縄国際大学沖縄法政研究所特別研究員
- 13:35-13:55 発表2: 香港人アイデンティティの動員力は持続可能なのか?
 ——錢俊華/東京大学大学院総合文化研究科地域文化科学専攻博士課程
- 13:55-14:15 発表3: 新冷戦 (=分極化) の下での民主主義を考える——ポスト・トゥルース時代のポストコロナ的事例としての「台湾」からの実践と構想
 ——李依真/東京大学大学院総合文化研究科地域文化科学専攻博士課程満期退学
- 14:15-14:35 休憩
- 14:35-14:55 応答1: 金抗/延世大学校教授
- 14:55-15:15 応答2: 張政通/東京大学准教授
- 15:15-16:00 全体ディスカッション

2022年は、沖縄返還 50 年という節目の年であった。東アジアというトposが抱える矛盾が凝縮された「辺境」という視点から、1945年以降、沖縄が辿ってきた道程を歴史のおよび理論的に考察した。

Publications

EAA Forum 13 30年後の被災地

高橋哲哉 ほか 著

2023.3.10



EAA Forum 21 大学“書院”教育模式的経験と思考

石井剛 編

2023.3.10



EAA Forum 14 朱子学的過去と未来

田中有紀 編

2022.6.24



EAA NOZOMI Collection No.1 初期植民地台湾における「漢文」と統治

前野清太郎 著

2022.8.20



EAA Forum 15 中国現当代文学研究的方法及其射程

王欽 編

2023.3.15



EAA NOZOMI Collection No.2 偶然性と実存

——九鬼、メルロ=ポンティ、メイヤスー

田村正資 著

2022.8.20



EAA Forum 16 「人間」を価値化する

五神真 ほか 著

2023.3.10



東アジア藝文書院 2021年度活動報告書

2023.3.10



EAA Summer Institute 2022 Student Report

2022.12



東京大学東アジア藝文書院
EAST ASIAN ACADEMY FOR NEW LIBERAL ARTS, UTokyo

●Mail: info@ea.c.u-tokyo.ac.jp
●URL: <https://www.ea.c.u-tokyo.ac.jp>